

## 令和6年度高知県文化芸術振興ビジョン評価委員会（第1回）議事概要

1. 日時 令和6年8月23日（金）9：30～11：30
2. 場所 高知県立高知城歴史博物館 1階ホール
3. 参加委員 中平委員長、川鍋委員、新開委員、谷委員、都築委員、西田委員、吉澤委員
4. 議題 高知県文化芸術振興ビジョン行動計画について

### [意見交換]

委員	<p>KAP (Kochi Art Projects) 事業の助成額 30 万円は中途半端だと感じる。事業に対しての評価をランク分けするなど、より影響があるもの、発展性があるものを打ち出した方がよい。</p> <p>芸術祭の開催はとても良いものだが、郡部に行くと、体育教師や音楽教師が美術の授業を兼任しているような状況。外部から見ると美術は「誰でもが兼任できる」、「専任をおく必要がない」と思っているのではないかと感じる。子どもが少ない地域では、美術教師が複数の学校を兼任するやり方もあると思う。中山間地域へのアーティスト派遣等を活用して、小中学校、特に手薄になっていると感じる中学校で美術に触れる機会を作ってほしい。中学校で触れないと、高校では選択しないし、美術を知らないまま大人になってしまう。</p> <p>国民文化祭について、高知県にあまり関係のない、単に作品の評価が高くて集客が出来るであろうパッケージの展覧会の事業を紹介された。上からそうやって押し付けられた事業をやらされるのは意味がなく、せっかく高知で開催するので高知県から全国へ発信できるようにサポートすることが重要だと感じる。</p>
事務局	<p>KAP 助成事業については、昨年度応募が少なかったため、今年度は周知活動を強化した結果、応募数が増加した。一方、申請はあったものの企画が採択されなかった事業者の方を支援するために、今年度は人材育成プログラムのフォローアップ支援で、いかに魅力的な企画にするかという伴走支援のメニューを用意させていただいた。助成額に関しては、全体の予算額、そこに見合う応募数や採択数等を鑑みる必要があり、文化財団と検討していく。</p> <p>次に、若い頃から芸術文化に触れる機会を持つことについては、現在も文化施設において、学校に出向いたり、来てもらう仕組みがある。また、今年度より実施している中山間地域へのアーティスト派遣事業（げいぶんお届け隊）では、文化芸術の鑑賞機会の確保や、指導者の派遣など、学校現場以外への取り組み支援も始めたところ。</p> <p>学校現場については、国も同じような支援に取り組んでいるので、国のメニューとも連動しながら、中心部だけではなく中山間地域への取り組みを今後も検討していきたいと思っている。</p>

事務局	<p>お話のあった展覧会については、県と包括連携協定を結んでいる企業より提案をいただいた。各県で国民文化祭の時に実施している展覧会であり、美術館を持っている市町村に、もしよかったらどうかという趣旨で提案させていただいた。県と市町村は対等な関係であり、「上から押しつける」というものではない。市町村独自事業では、市町村の特徴を生かした内容を検討していこうとしている。</p>
オブザーバー	<p>文化財団では、自主財源を活用した助成事業を実施している。そちらの事業では、今年は上限 100 万円の助成制度を構えている。全体の底上げを図ることを主な目的としている KAP 事業とは別に、芸術性、文化性の高い事業を対象としている。KAP 事業と我々の事業 2 つを併せて県内全域の文化芸術の振興に寄与していく形をとっているところである。</p>
委員	<p>美術教師の兼任の問題について、高知県には非常にユニークな美術の先生もいらっしゃる。そういった方に習うことが美術の体験としてすごく記憶に残ると思うので、生徒たちとの接点を増やすことは必要だと思う。空き教室や廃校をアーティストに解放して、作品を作ってもらえる機会があると良いと思う。</p> <p>各分野のデジタルアーカイブ化の話があったが、歴史資料や伝統文化の継承の面で、デジタル技術を活用していくのは喫緊の課題ではあり、有用なことだと認識している。資料保存に関して、各施設で実施しているとは思いますが、一般の方で歴史資料を持っている方が利用できる方策はあるのか。</p>
事務局	<p>教育現場でユニークな方との接点を増やすことにおいて、今後、中山間地域へのアーティスト派遣として、芸事図鑑に登録してもらっている約 250 名から選出させていただこうとしている。</p> <p>また、少し分野に限られるが、当課では小中学生を対象に、県内のプロ又はセミプロの漫画家を講師として派遣するまんが教室を実施している。廃校の利用に関しては、関係機関と情報を共有する。</p>
事務局	<p>一般の方がお持ちになっている歴史資料に関しては、歴史民俗資料館等がデジタルアーカイブ化を行っているため、相談していただければ対応が可能である。</p>

委員	<p>文学館で開催中のムー展が非常に面白いと感じている。パッケージの巡回展かと思ったら、純粋に館が作った企画展だと知り、素晴らしいと感じた。全国への巡回展に出来るのではないかと感じた。また、ムー展に関連して、三館連携の取組を実施している。明日は美術館で映画の鑑賞会があるので、見に行く。</p> <p>こういった取り組みは非常に良い。</p> <p>民俗芸能の保存活用については、色々なところで取り上げられており、問題になっていると思う。神楽など有名なものだけではなく、地域に残っている民俗芸能や民族の伝統習慣もある。歴史民俗資料館で実施している企画展のギャラリートークに行ったところ、多くの方が来ており、興味がある人は多いと思った。地域地域で残っているものをどう継承していくのか、残していくのかといったことが重要になってくる。人材育成にも繋がるが、地域地域で残していく人材を育てていくことが大事かと思う。今後考えていっていただきたい。</p> <p>先日の高知新聞に、国の登録文化財の制度について高知県は国の指定制度があるので、今のところは考えていないと掲載されていたが、このことについて県としての姿勢を教えていただきたい。</p>
事務局	<p>民俗芸能の人材育成については、地域の小さな民俗芸能を次世代に残すための取組として、伝統芸能まつりを開催し、祭りを知っていただく機会を設けている。これは、実際に芸能をされている方が誇りを持ち、地域に自信を持っていただく意味もある。</p> <p>また、担い手支援事業では、地域に県内の大学生や企業に行っていただいて、地域の踊りや運営に参加することで、芸能を繋いで続けていくという取り組みを行っている。</p> <p>国の登録文化財に関しては、県としては国の文化財として登録できる文化財があるのであればそちらの方で良いのではないかと考えているが、先行県の情報収集もしながら、現地にも訪問し、必要であれば検討していきたい。</p>
委員	<p>歴史民俗資料館の方が個人で収集されているものも、デジタルできちんと整理して残していくことも県で予算をつけてやってほしい。</p>
事務局	<p>デジタルアーカイブ化については、県も市町村への取り組み支援を行うとともに、歴史民俗資料館などの館でも取り組んでいるので、引き続き進めていきたいと思っている。</p>

委員	<p>今年の高知県芸術祭で、県内のアマチュアの落語家による公演が行われる。ユニークな題材を取り上げる方もおり、期待している。</p> <p>高知県文化賞が少し物足りないと感じている。選定理由を書かれた冊子しかなく、業績を具体的な形で県民に伝える手段はないのか、芸術系であれば作品の発表や展示、研究者であれば歴史民俗資料館等で展示をして周知をするといったことはできないのか、もうひと工夫欲しいと感じる。</p>
委員長	<p>自分も文化賞の選定委員をしているが、新聞紙面で紹介されて終わりとなっている。確かに、他の機会で周知するという事はなかった。</p>
事務局	<p>これまで受賞者の方の功績を県民の方に紹介する機会は設けていなかった。検討する。</p>
委員長	<p>受賞分野にもよるかとは思いますが、是非検討を。</p>
委員	<p>高知県芸術祭について、周りの人に聞いてみたが、認知度は低いと感じた。参加団体を増やしていくということだけでなく、見に来る人を増やすという考え方も必要かと思う。考えていることがあれば教えていただきたい。</p> <p>また、3ヶ月の開催期間が長いと感じる。設定期間に対しての理由があるのであれば、教えてほしい。</p> <p>学校単位での参加者を増やすためには、学校での探究学習に乗せていくことが良いのではないか。出前講座にて、事前学習でテーマを与え、フィールドワークでその館に行って、人に聞き、調べ、考えて、戻ってきたら自己学習で発表しあう、という学びのサイクルにつなげていくと、結果として学校単位での来館者も増えると思う。</p>
事務局	<p>芸術祭の参加人数は、年によって増減はあるものの、去年は約13万人となっている。80あまりの団体がイベントを実施しているが、すべてのイベントに対しての人数を合わせた数字である。参加人数についても意識した取り組みをしていきたい。期間は、80の団体がそれぞれ多くの人に来ていただくために週末に実施することが多いため、3ヶ月の設定になっている。</p> <p>教育普及事業に関しては、ご意見をいただいたことも念頭において取り組んでいく。当課も昨年より、教育関係者が集まる会に出向いて館のメニューを紹介する周知活動を始めたところである。</p>

委員	<p>国民文化祭について、前回、小中学生も参加できる仕組みにすれば良いのではないかと話をさせていただいた。大学生の起用の話もあったが、今後、本県の芸術文化を担っていく人材であるので、そういった取り組みを進めるのは非常に大事だと思う。その時に、総文祭との繋がりや、まんが王国・土佐としての取り組みとの繋がりも含めて、色々な分野から取り組んでいただきたい。</p> <p>中山間地域へのアーティスト派遣事業（げいぶんお届け隊）に関連するが、だいぶ前に高校生アーティスト育成派遣事業をやっていて、すごく評判が良かった。色々なアーティストが中山間へ行く取り組みは幅も広がるし、とても良いと思う。具体的な取り組みは今後か。</p>
事務局	<p>国民文化祭について、具体的な話は今後であるが、開会式や閉会式に関しては、学校単位で参加していただくことや、各大学で実施している文化祭や高文祭との連携は考えている。</p>
事務局	<p>中山間地域へのアーティスト派遣に関しては、目的により、芸術鑑賞事業と実技指導の2つに分かれている。予算上は、県内6圏域で2箇所ずつを想定したものになっている。現在10件程度の要望が来ており、今後具体的に進めていく予定である。</p>
事務局	<p>牧野植物園については所管と共有する。</p> <p>とさぶしについて、ターゲット層である若年層に向けて、紙媒体だけではなくインスタグラム等のデジタル媒体を活用した情報発信を進める。新たな取り組みとして、とさぶしに登場する人物を、ターゲット層の若年層に共感してもらえるような若い人材にするとともに、若い世代にも意見を求めるようにする。具体的なやり方については今後検討する。</p> <p>KAP 事業及びげいぶんお届け隊についても先ほど述べたとおり。</p> <p>伝統工芸品については所管課と情報共有する。</p> <p>特別支援学校等については、引き続き情報発信を進めていく。</p>
委員	<p>県史編さんの調査活動の成果をまとめた小冊子（ブックレット）について、「こんなことをやっているんだ」ということを県民の方にも知っていただくことが大事である。こういった事業にはぜひ取り組んでいただきたい。そういった小冊子の作成の推進はもちろん、ネット等を活用してデジタル媒体でも見られるようにするとより良いのではないか。</p> <p>収蔵庫問題は喫緊の問題だと思われる。あり方検討委員会での議論を進めていただき、我々委員にも分かりやすいようにしてもらいたい。</p>
事務局	<p>県史編さんについて、県史の事業を県民の方にも知っていただくことは非常に重要である。とさぶしでの紹介以外にも今年度、調査が進んだところから成果を県民の</p>

	方にお知らせする冊子も作成する予定としている。また、ご提案のあったデジタルの視点も重要だと思うので、今後検討していく。
事務局	あり方検討委員会について、今年度1回開催しており、また近々開催する予定。歴史民俗資料館での取り組みも、専門の委員の方から改善点や意見を頂戴しているところである。検討会の概要についてはHPで掲載をしており、また一定とりまとめが進んだ際には広く県民の方に周知することが必要と考える。
委員長	デジタル保存はこれからの時代で不可欠だと思われる。
	以上